

令和4年度 香南市学校評価報告書

香南市立佐古小学校

経営理念	【学校経営理念】学び合い・関わり合い，自ら伸びる学校づくり
	【学校経営方針】《学び合い》学びで“たかまる”学校 《関わり合い》関わり“つながる”学校 《自ら伸びる》夢を語り“ひろがる”学校
	【学校教育目標】みんな かがやく 佐古小学校

短期計画 目標〈単年度の到達指標〉		具体的な取組		自己評価			学校関係者評価		年度末検証	
				取組 評価	目標指標達成度	到達状況	評価	考 察		評価
知	【全国学力学習状況調査】 (国・算) 全国・高知県平均以上	自ら 学び に向 かう 授 業 づ く り	①外国語の授業研究を基盤として主体性を伸ばす授業づくりを行う。	81.8%	○授業に主体的に取り組んでいる 93%以上	○魅力ある学校アンケート「授業に主体的に取り組んでいる」 94.8%	A	○調査結果をしっかりと分析し、それぞれの学年で基礎基本の定着を図ると共に全国平均以上を目指してもらいたい。	B	◇自ら学びに向かう授業づくりは73.9% ①全教員（担任・専科）が公開授業を行うことができた。 ②調査を実施して、分析を授業改善につなげることができた。 ③各学年でNIEの取組を行い、特に短作文に継続して取り組んだことが書くことへの成果につながっている。 ◇子供にわかる授業づくり89.3% ①各種学力調査の結果から課題を分析し、各学年で取り組んできたが、十分に改善できていない部分もある。 ②全員が校外研修に参加し学ぶことができたが、伝達研修の時間の確保が十分にできなかった。 ③ICTの活用について研修を行い基礎的な理解はできているが、効果的に活用した授業づくりについては更に研究を深める必要がある。
			②外国語意識調査結果を検証する。	90.0%	○話し合いを通じて、友達の見解を参考にし、自分の考えを広げている 80%以上	○さいこう学校づくりアンケート「話し合いを通じて、友達の見解を参考にし、自分の考えを広げている」 92.9%				
			③NIEの推進に向けての校内研修（共有）を実施する。	50.0%						
	【高知県学力定着状況調査】 (国・算・理) 全国・高知県平均以上	子 供 に わ か る 授 業 づ く り	①標準学力調査・全国学力状況調査・高知県学力定着状況調査を分析して課題対応を行う。	91.7%	○全国学力調査（国・算）全国・高知県平均以上	○全国学力調査：6年 佐：国語62 算数60 国：国語-3.6算-3.2 県：国語-4.0 算数-6.0	B	○標準学力調査については特に算数に課題を感じる。基礎学力の定着、理解度の確認をして平均値のアップを目指してもらいたい。	B	
			②校外研修に参加し、研修内容を校内で伝達する。	83.3%	○県学力調査（国・算・理）全国・高知県平均以上	○県学力調査：4・5年 5年：国語76.3，算数60.5 理66.7 県比較：国+2.4，算-2.1，理+6.7				
			③ICTを活用した授業づくりを行う。	92.9%	○標準学力調査正答率（国・算）全国平均以上	4年：国語71.6，算数70.9 県比較：国+1.2，算-1.9 ○標準学力調査全国以上 国語：5学年中 1学年				
	【標準学力調査正答率】 (国・算) 全国平均以上	基 礎 基 本 の 定 着 と 家 庭 学 習 の 習 慣 化	①学習支援が必要な児童を対象として、算数・国語教室を実施し、個別指導を行う。	93.3%	○学力調査正答率 経年比較での向上	○標準学力調査（国・算） 経年比較 ・国 3年-1.1 4年-3.8 5年-1.8 6年-0.8 ・算 3年-2.5 4年-11.2 5年-1.7 6年-0.3	B	○学習態度が気になるので、話を聞く時の姿勢や聞き方など、学習規律の見直しを行い、学びの土台を作って欲しい。	B	
			②「家庭学習のすすめ」を配布して家庭学習の習慣化を図る。	86.7%	○生活がんばりカード 家庭学習（1～2年20分以上、3年30分以上、4年40分以上、5年50分以上、6年60分以上）90%以上	○がんばりカード 家庭学習 ・1年86.9% ・2年94.1% ・3年91.4% ・4年88.8% ・5年65.8% ・6年90.4%				
			③授業につながる学習課題を与える。	100%						

徳	【魅力ある学校生活アンケート】 「学校へ行くのが楽しい」強肯定65%以上 【道徳意識調査】 「道徳の勉強は、好きだ」90%以上 【道徳意識調査】 「きまりを守っている」95%以上、「良いところがある」90%以上 【Q-U不満足群】 16名以下 【道徳意識調査】 「人が困っている時は、進んで助けている」低95%以上、中高89%以上 【さいこうの学校づくりアンケート】 「進んであいさつができる」95%以上	自尊感情を育む授業づくり	①「考え、議論する」道徳の授業実践をめざした授業改善を行う。	84.6%	○学校へ行くのが楽しい 強肯定65%以上 ○道徳の勉強は、好きだ 90%以上 ○きまりを守っている 95%以上 ○良いところがある 90%以上	○魅力ある学校アンケート「学校へ行くのが楽しい」強肯定90.3% ○道徳意識調査「道徳の勉強は、好きだ」91.6% ○道徳意識調査「きまりを守っている」97.2% ○さいこう学校づくりアンケート「良いところがある」91.2%	A	○子供があいさつしやすいように、教職員のモデルになるあいさつが大切。意識して取り組んでほしい。	A	自尊感情を育む授業づくり 87.2%
			②授業や特別活動を通して道徳項目の行動化と啓発に努める。	92.3%				○月1回のあいさつ運動が定着しつつある。玄関で児童会の子供たちと触れ合える時間はとても有意義なので、今後も続けていって欲しい。		①道徳スタンダードや授業づくり講座の研修内容の報告ができた。また参観日などの際に、道徳の授業公開を行うことができた。
			③生徒指導の三機能を生かした授業づくりを定着させる。	84.6%				○感染対策等でいろいろな制限がある中で学校もたいへんと思うが、高い取組意識を先生方が持ってくれている。継続していけば、必ず成果が上がってくるので頑張っている。		②道徳意識調査の検証より学年で改善点等を話し合い取り組むことができた。
	良さや違いを認める学校風土		①校内支援会の充実を図り、職員会の児童理解のコーナーで支援方法を共有する。	92.9%	○Q-U不満足群 16名以下 ○人が困っている時は、進んで助けている 90%以上 ○進んであいさつができる 95%以上	○Q-U不満足群20名 ○道徳意識調査「人が困っている時は、進んで助けている」95.8% ○さいこう学校づくりアンケート「進んであいさつができる」94.5%	B		B	①計画的に支援会を実施し、児童の状況を共有した。その上で必要に応じてユニバーサル支援や個別の配慮を工夫した。支援員との情報交換や連携ができた。
			②ありがとうカードを学期に1回取り組み、学年を超えた交流の機会も持ったり、友だちのよいところ見つけを継続的に行ったりする。	100%						②ありがとうカードの取組を行うことができた。学級で友だちのよいところを見つける場面を設定し、書いた物を全校で共有することもできた。
			③あいさつの日常的な意識化を図る取組を工夫し継続して行う。	93.3%						③月に一回のあいさつ運動が定着してきた。今後は、児童会でのポスター作成、集会や代表委員会でのよびかけなどを積極的にを行い、さらなる啓発の工夫を行ってきたい。

体	【さいこうの学校づくりアンケート】 「体を動かすのが好き」 92%以上 【全国体力・運動能力、運動習慣調査】「体育の授業は楽しい」92%以上 【生活がんばりカード】 「早寝（前の日）」71%以上 「朝食摂取」76%以上 （2年目以降はバランスのとれた朝食を到達指標とする）	体力が向上する授業づくり	①体育の時間に帯びタイムを設定し、「体力アップチャレンジカード」や「こうちの子ども体力・運動能力向上プログラム」に取り組む。	71.4%	○体を動かすのが好き 92%以上 ○体育の授業が好き 92%以上	○さいこう学校づくりアンケート 「体を動かすのが好き」 94.8% ○全国体力・運動能力、運動習慣調査「体育の授業は楽しい」95.2%	B	○体を動かすことが好きな児童が多くいることは嬉しい。 ○徒歩通学が減っている状況から、体力向上を目指すのは厳しい。保護者に現状を知ってもらい、徒歩通学を増やしていくことに取り組んでいくことも必要。 ○体を動かすことが、早寝にもつながっていくのではないかな。 ○朝食を食べていない、バランスのとれた食事ができていない家庭への積極的な働きかけが必要。学校全体の問題として取り組んでいって欲しい。	B	◇体力がが向上する授業づくり77.4% ①②「こうちの子ども体力・運動能力向上プログラム」のへ取組として、校内研修会を2回実施することができた。また、朝の体幹トレーニングを続けて行うなど全校的な取り組みができています。児童のアンケートで「体を動かすのが好き」な児童の割合が増えている。体力テストへ向けた取組も行い、5年生は男女ともに全国平均を上回る結果が出ている。 ◇生活習慣に対する自己管理意識の向上87.8% ①「早寝」に関して、時刻の設定を本年度見直し取り組んだ結果、目標値を上回ることができた。また、メディアの視聴についても就寝時刻が遅くなる原因となるので今後も継続して保健指導を行っていく。「バランスのとれた朝食摂取」は達成できていない学年があるので、引き続き家庭への協力を呼び掛けしていく。
			②「わたしたちの体育」を活用する。	83.3%						
		生活習慣への自己管理意識の向上	①生活がんばりカードに取り組む。	92.3%	○早寝（前の日） 71%以上 ○「バランスのよい朝食摂取」 76%以上	○早寝（前の日） ・1年76.2% ・2年77.4% ・3年81.6% ・4年88.2% ・5年78.8% ・6年71.3% 《全校平均》78.9% ○バランスのよい朝食摂取 ・1年69.8% ・2年79.2% ・3年74.6% ・4年79.4% ・5年66.7% ・6年73.8% 《全校平均》73.9%	B			
			②関係機関と連携した教室を実施する。	83.3%						

横断	①【30日以上長期欠席】 0人以内 ②【超過在校等時間】〈特別な事情を除き〉 月平均45時間を超える 0人以内 ③【さいこう学校づくりアンケート】 「子供たちの安全意識を高め 取組をしている」 保護者 95%以上 ④【さいこう学校づくりアンケート・ 学校評価保護者アンケート】 「夢や目標をもっている」 児 童 80%以上 保護者 95%以上 ⑤【さいこう学校づくりアンケート】 「子供たちや保護者・地域住民 の意見を学校運営に反映して いる」 保護者 85%以上	不登校防止	①不登校未然防止の意識向上 ・講師招聘研修を行い、児童理解のスキルアップを図る。 ・関係機関との連携を図り、不安傾向のある児童に対する早期把握と早期対応を行う。	90.6%	○30日以上長期欠席 0人以内	○30日以上長期欠席 1人	B	○早期把握や早期対応、経過観察を行い、不登校未然防止に向けて取り組んでもらいたい。 ○昨年度より超過在校等時間人数が減少しているので継続して取り組むとよい。 ○学校の裏山の工事が開始されたことが保護者の安心につながる。 ○夢や目標を家庭で話し合うなどの時間を作っていく取組を行ってはどうだろうか。 ○地域の方へのあいさつ運動のお礼のはがきを出す取り組みがとても良かった。地域の方がとても喜んでくれている。あいさつ運動から交流の輪を広げていきたい。 ○先生のあいさつや言葉が大切。 ○地域と協働した活動の気運が高まってきているので、今後につなげてほしい。	B	(1)教職員の取組意識は90.6%と高く、関係機関との連携を図りながら取り組むことができたが、長期欠席児童や家庭への支援体制が十分にできなかった。 (2)教職員の取組意識は高いものがあるが勤務時間外在校等時間が多い教員が4名おり、さらに業務改善を検討する必要がある。 (3)教職員の取組意識は86.1%と高く、学年に応じた防災学習に取り組むことができた。また体育館への避難訓練といった新たなことも実施することができた。 (4)教職員の取組意識は66.6%と低くなっている。総合的な学習のカリキュラムの見直しが必要。 (5)教職員の取組意識は86%。地域コーディネーターとの連携がさらに進み、あいさつ運動の取組を通して地域学校協働活動が前進している。
		働き方改革	②働き方改革の推進 ・メンター制と教科担任制の効果的な運用について研究を進め、勤務時間外在校等時間の減少につなげる。 ・個別面談を通して、働き方改革への意識向上を図る。	84.9%	○超過在校等時間 月平均45時間を超える 0人以内	○超過在校等時間 月平均45時間を超える (1・2学期平均) 4人	B			
		防災学習	③防災を中心とした安全教育の徹底 ・県学校安全プログラム等を参考としながら、学年の系統性を考えたカリキュラムに改善する。 ・地域の防災課題に応じた危機管理マニュアルの見直しを行う。	86.1%	○子供たちの安全意識を高め取組をしている 保護者 95%以上	○さいこう学校づくりアンケート「子供たちの安全意識を高め取組をしている」 保護者 88.6%	B			
		探究型の学習	④児童の自発性を伸ばす探究型の学習の追究 ・総合的な学習を地域課題にそった探究型の学習の機会とする。 ・ICTの活用など、探究的な学習を促進する学習環境を整える。	66.6%	○夢や目標をもっている 児 童 80%以上 保護者 95%以上	○さいこう学校づくりアンケート・学校評価保護者アンケート「夢や目標をもっている」 児 童 90.3% 保護者 71.1%	B			
		地域学校協働活動	⑤地域学校協働活動の充実 ・学校運営協議会を定期的に開催し、コミュニティ・スクールの定着と地域学校協働活動の促進を図る。 ・コミュニティスクールに関する啓発活動を行う。	86.0%	○子供たちや保護者・地域住民の意見を学校運営に反映している」 保護者 85%以上	○さいこう学校づくりアンケート「子供たちや保護者・地域住民の意見を学校運営に反映している」 保護者 80.7%	B			

【自己評価のめやす】(取組評価指標平均と目標指標達成割合を目安とする)

《A》達成できた

・取組評価 85%以上、到達状況 10 割

《B》どちらかといえば達成できた

・取組評価 75%以上、到達状況 8 割以上

《C》どちらかといえば達成できなかった

・取組評価 65%以上、到達状況 6 割以上

《D》達成できなかった

・取組評価 65%未満、到達状況 6 割未満